

No.	意見種類 1 修正 2 追加 3 削除 4 その他	対象	意見	本市見解
1	1 修正	PI はじめに	世界的情勢のあとに日本の情勢を書かれていますが、内容的には温暖化の話の後に、生物多様性の話があり、また温暖化に戻っています。温暖化は温暖化でまとめ、生物多様性は生物多様性でまとめられたいかがでしょうか？	ご指摘を受け、国内の地球温暖化に係る文章を世界の温暖化の後に記述し、話題を温暖化と生物多様性の2つに分けて記載します。
2	1 修正	PI はじめに	第二段落の二行目：細かな点ですが、「決定では」は「同文書では」あるいは「決定文書では」の方が、より適切ではないでしょうか。	ご指摘を受け、「決定文章では」に修正します。
3	1 修正	PI はじめに	第三段落の二行目：「ピークアウトさせ」という表現は一般の人にはわかりにくいのではないのでしょうか。また、そのあとの削減については「世界全体で」という説明がある方が良くと思います。	ご指摘の「ピークアウト」ですが、和訳すれば「頂点に達し、それ以上は上がらない状態」との意味ですが、日本国政府代表団が使用している言葉はできるだけ原文のままとしています。また、環境問題で使用される言葉としては、わかりにくい言葉ではないと考えるため、原文のままとします。 また、COP28に係るコメントは、日本国政府代表団が公表しているCOP28の成果を元に文言を追加修正します。
4	2 追加	PI はじめに	環境悪化に対する切迫感をもっと入れられないでしょうか。例えば、2023年に新語・流行語大賞にノミネートされた「地球沸騰化」を地球温暖化の進行を象徴する言葉として紹介するなど。2023年は世界の平均気温が産業革命前から1.48℃上昇し、観測史上最も暑い1年だったことなど。	ご指摘を受け、「世界気象機関(WMO)は令和6年(2024年)3月、「世界気候の現状2023」の確定版を発表し、令和5年(2023年)は、世界の平均地表面温度が産業革命前の基準値から1.45度上昇し、観測史上最も温暖な年となったと伝えました。」を追加します。
5	2 追加	P6 再生可能エネルギーの活用を中心とした低炭素社会への転換	昨年と今年の気候危機(激しい温暖化)の現象についてはどこかで触れられないのか。	
6	1 修正	PI はじめに	生物多様性も無論大事なことではあるが、2020年までの愛知目標が失敗したように、30by30をことさらに取り上げる必要はなく、むしろ、世界的なプラスチックゴミの深刻さ、PFASなど新しい公害ともいえる問題の顕在化などを取り上げた方が目をひくのではないのでしょうか。	国内において、生物多様性の問題は、気候変動と比べて認知度が低い現状にありますが、国際的にはカーボンニュートラルと並び重要な課題として捉えられており、本計画の指標にも複数関連する施策が盛り込まれています。そのため、生物多様性に係る文言は原文のままとします。
7	1 修正	PI はじめに	COP28の最大の成果は、「GSTの実施」ではなく、COPとして初めて、「化石燃料からの脱却」に向けてこの10年間で行動を加速させるというロードマップを承認したことだと考えています。	日本国政府代表団が公表しているCOP28の成果を元に文言を追加修正します。

No.	意見種類 1 修正 2 追加 3 削除 4 その他	対象	意見	本市見解
8	4 その他	P3 環境保全・創造の基盤となる人・組織・仕組みを「はぐくむ」	環境啓発イベント参加者数の評価点ですが、あくまでインフォレストすいたで実施した環境展示期間に訪れた人を含めればの話ですので、注意書きはあるものの、5点という評価はどのようなのでしょうか？	評価に係る基準は、環境基本計画策定時にP2のとおり定められており、インフォレストすいたを訪れた人数を含めイベント参加者数として評価を行うこととしているため、評価は「5」となります。 一方で、インフォレストすいたを訪れた人数の増減がイベント参加者数に与える影響が大きいことから、その他のイベント参加者数の推移についても確認、評価する必要があるため、今年度より2段書きで表記しています。
9	4 その他	P3 環境保全・創造の基盤となる人・組織・仕組みを「はぐくむ」	啓発イベント参加者数の評価が「5」となっているが、インフォレストすいたの人数を見込んでの評価で良いのか（インフォレストすいたを除けば、2018年比（コロナ前）よりも落ち込んでいる。）	
10	4 その他	P3 環境保全・創造の基盤となる人・組織・仕組みを「はぐくむ」	活動指標のアジェンダ21すいたの事業者会員数は、13と横ばいですが、これは、新規会員が増えないのか？入れ替わりとなっているのか？また、数値は増えない原因は何だとお考えか。5年度に工夫したことなどはあるのか？	アジェンダ21すいたの事業者会員数については、新規会員が増えていないため、横ばいです。新規会員の獲得に向け、毎年、市報への掲載などの広報活動を実施していますが、事業者の目には触れていないと考えられます。そのため、同団体がイベントを実施する際には、できる限り事業者に参加いただき、同団体に興味をもっていただくよう、取り組んでいます。
11	4 その他	P3 環境保全・創造の基盤となる人・組織・仕組みを「はぐくむ」	木材利用について使用量が増加となっているが、具体的にどの公共施設のどの部分に使用したことによるものなのか。増加というのが目標となっているが、どこまで増やす見通しはどの程度か。	令和5年度の主な実績としては、吹田市総合防災センターの腰壁や腰壁見切り、天井や壁面のルーバーなどに地域材を使用しています。今後も、公共施設の大規模修繕・建替え等の際には、木材利用推進ガイドラインに基づき、各室課へ木材利用を促す等、実績を重ねる中で、適切な目標の設定について検討します。
12	4 その他	P3 環境保全・創造の基盤となる人・組織・仕組みを「はぐくむ」	里山デイキャンプの子供たちの反応は？ こういうイベントも良いが、実際に、環境保全につながる活動を、『はぐくむ』ような施策展開が必要ではないか。（たとえば、緑化づくりを市民農園のように、市有地の空き地を使って共に育てていくプロジェクトなど継続的に育む内容など）	里山デイキャンプのアンケートによると、参加者全員が満足したとの結果が出ています。自由記述の中にも生き物や木など、自然と触れ合ったことを記載している子どもが多く、自然に関連した学びを得ている子供が多数いました。 里山デイキャンプ以外にもヒメボタル発光調査体験、昆虫観察会などを実施しており、今後も、子供だけではなく様々な世代が参加できる取組を検討し、環境保全活動につながるよう、施策を展開します。
13	1 修正	P4 良好な環境を「まもる」	市域の太陽光発電システム設備容量ですが、照会中になっています。重要な指標だと思いますので、審議会に間に合うようでしたら、是非数字を入れてください。	記載しました。

No.	意見種類 1 修正 2 追加 3 削除 4 その他	対象	意見	本市見解
14	4 その他	P4 良好な環境を「まもる」	生物多様性に関する指標が2項目、それぞれ評価が「2」と「1」と悪い状況にあることの見解と対応はどのようにお考えでしょうか。	生物多様性保全のイベントの参加者数は、基準年度に比べて減少しているものの、イベントの開催回数は大幅に増加しています。基準年度に実施したイベントはブース出展など、展示による啓発が多くありました。(水道部が実施したすいすいくん祭りへのブース出展は、すいすいくん祭りの参加者数(約800人)をカウント)一方で、令和5度を実施したイベントは、デイキャンプや観察会など、参加型イベントを数多く実施しています。(花とみどりの情報センターが実施した花と緑のフェアへのブース出展は、フィールドワークの参加者数(60人)をカウント)生物多様性の啓発は、ワークショップなどの参加型イベントを通して、実際に生物に触れ、専門家の話を聞くことで理解が深まるため、高い効果が得られると考えています。今後も啓発効果の高いイベントを検討し、実施していきます。評価のコメントについては、「基準年度を下回っています。」を追加します。
15	4 その他	P4 良好な環境を「まもる」	生物多様性保全のイベントは令和4年からは増えてるが、基準年度に比べても目標には及ばない状況についても触れる必要があるのではないかと。	ご指摘を受け、「(P7資源を大切に社会システムの形成参照)」を追記します。
16	2 追加	P4 良好な環境を「まもる」	ごみの減量の啓発やごみ排出量の減少傾向については、p7にも同様に書かれており、減少理由については後述されていることから、「p7資源を大切に社会システムの形成参照」などを入れるとよいのではないのでしょうか。	令和5年度のイベント数は年間61回、月平均5回以上開催しており、少ないと考えていません。また、エコイベント宣言を含む地域のごみ減量の活動については、地域主体の開催のため、イベント数に計上しておりません。一方で、全ての地域ではありませんが、エコリーダー(本年7月末現在、269名)から、活動報告書の提出を受けることで、一定把握できていると考えています。しかし、中にはエコイベント宣言をされずに、地域イベントでごみステーションの設置を行っている事例があることから、更なる周知に努めます。
17	4 その他	P4 良好な環境を「まもる」	食品ロス削減などのごみ減量の啓発活動については、実数が少ないのか疑問。エコイベント宣言などは、その制度を市民が知らないから申請しないなど、市が把握できていない。可能性もあるのではないかと。その点、いかがお考えか。	御意見をふまえ、エネルギーに関してより詳細に記載しているP6 分野別目標「再生可能エネルギーの活用を中心とした低炭素社会の転換」の評価の箇所を、より具体的な内容となるよう修正します。
18	1 修正	P6 再生可能エネルギーの活用を中心とした低炭素社会の転換	生物多様性について、良好な環境をまもる。という視点から、指標では太陽光システムの施設容量やエネルギー消費量に対して、再生可能エネルギーの導入について触れています。評価の部分にももう少し具体的などう政策転換の内容を記述してはどうか。(ビジネススタイルの転換とはなんのことかなど)	

No.	意見種類 1 修正 2 追加 3 削除 4 その他	対象	意見	本市見解
19	4 その他	P7 資源を大切に する社会シ ステムの形 成	市民1人当 たりのごみ 排出量です が、773g/ 人・日とい うのは日本 全体の901 g(2020年 度)を大き く下回って います。も ちろん減少 傾向自体の 要因(物価 高騰、啓発 活動等)は 書かれてい ますが、こ の要因で日 本全体との 格差も説明 できるのだ でしょうか 。日本全体 とこれだけ 格差がある からには、 よっぽど吹 田に良い点 があるから なのでしょう か、それは いったい何 なのでしょう か。	令和5年度 (2023年度) の本市人口 は前年度比 で0.6%増 加し、年間 ごみ排出量 については 、事業系ご みが、ほぼ 横ばい、家 庭系ごみは ▲3.5%(27 08トン減) であり、人 口増加率に 比べてごみ 削減率が高 くなってお り、本指標 の低下に繋 がっています 。 西日本初の コンタクト の空ケース の回収をは じめとする 使い捨てご みや大量廃 棄の減少、 リサイクル の促進等の 様々な取組 みを率優先 的に実施し ていること や、長年市 民目線での 啓発に取組 んでいるア ジェンダ21 すいたや公 益財団法人 千里リサイ クルプラザ の市民研究 所の活動な ど、市民の 生活スタイル に変化があ ったものと 推察してい ます。
20	1 修正	P7 資源を大切に する社会シ ステムの形 成	「溶融炉の 経年劣化の 整備に日数 を要し」の 理由が少し ばかりほし いところ。 「溶融スラ グ」の減少 がなぜリサ イクル率と 結びつくの かが不明な ため、「原料 料としてリ サイクルさ れる溶融ス ラグ」など 補足説明が あった方が よいのでは ないでしょ うか。	溶融炉の経 年劣化の整 備に日数を 要した理由 は、計画的 な整備であ るものの複 数個所の整 備であった ことから、 整備期間を 長めに取っ たためです 。評価は、 上記を踏ま え修正しま す。 「溶融スラ グの減少」と 「リサイク ル率」の関 係については 、リサイク ル率の算出 根拠を別紙 に示します 。
21	4 その他	P8 健康で快適 な暮らしを 支える環境 の保全	環境美化 推進重点地 区数は9の まま変化し ていないが 、評価の説 明文では、 地区数が団 体数に置き 換わり、団 体数は増加 しているとい う説明にな っている。少 なくとも指 標の「重点 地区数」に ついては触 れたうえで 、団体数の 話をした方 が良いでは ないか。	環境美化推 進団体につ きましては 、環境美化 推進重点地 区に限らず 、広く市内 の団体を募 っているも のであり、 必ずしも相 関関係のも のではない ことから、 原文のまま とします。環 境美化推進 重点地区に つきまして は、喫煙所 の整備のた めの用地の 確保、地域 の合意形成 に時間を要 すること及 びスモーク フリーの観 点から、近 年では新た に指定して いないもの です。
22	1 修正	P8 健康で快適 な暮らしを 支える環境 の保全	「環境美化 推進団体数 については 」→「環境 美化推進団 体数につい ては」	ご指摘のと おり、修正 します。
23	4 その他	P9 自然の恵み が実感でき るみどり豊 かな社会の 形成	吹田市域 の緑被率に ついて昨年 一昨年度に おいて率に 変動がない のはなぜか 。また、実 際に緑を増 やす施策と して、駐車 場の緑化の 助成など(車 椅子等のと ころはアス ファルトな ど配慮して )具体化し ていく必要 があるのだ はないか	緑被率につ いては、年 度ごとの急 激な変化は 考えにくく 、調査業務 の委託費も 高額となる ことから、 これまでみ どりの基本 計画の策定 ・改訂時期 にあわせて 実施してき ました(200 4年4月、2 013年4月) 。次回、第 3次計画策 定の基本デ ータとして 、調査を予 定しています (第3次計画 は、当初策 定予定のR 7年度を延 期して策定 する予定) 。駐車場の 緑化につい ては、車両 の出入りよ る踏圧や、 駐車時の日 照不足によ る植栽の生 育不良のた め、助成制 度は実施し ていません 。
24	2 追加	P10 快適な都市 環境の創造	大規模開発 や市の開発 行為につい ては触れら れていない が、開発状 況等も影響 の大きい住 環境の変化 であり、評 価案におい ても指標な どで触れる 必要がある と思いま す。	ご指摘を受 け、大規模 開発等に関 する指標で ある「まち づくりのル ール及び景 観に関する ルールの地 区数は、民 間の開発事 業、公共施 設の整備等 がきっかけ となり、増 加しています 。」を追加 します。

No.	意見種類 1 修正 2 追加 3 削除 4 その他	対象	意見	本市見解
25	4 その他	全体	施策全体の底上げには、ESDの視点による多様な主体が対等な立場で参画する対話と信頼関係構築、共通理解といった協働のプロセスを促す中間支援機能の補完が必要では?と感じています。	施策の推進のためには、市民・事業者・行政がそれぞれの立場での役割を果たすとともに、パートナーシップによる取組を積極的に進めていく必要があります。そうした協働のプロセスを促すためにも、中間支援機能の充実について検討していきます。
26	4 その他	全体	指標に対する分析については、評価（増えているとか）のあがる分のコメントは多いが、目標にまだまだであったり、下がってしまった内容等についてはあまり触れられていないように見受けられますが、それにはなにか意図はありますか。	コメントは、評価及び指標に変化のある項目を中心にしています。ご指摘のような意図はありません。

